

シリーズ  
19  
和納11区

# 新たな交流の芽生え

今月の「おじゃまします」地域情報ネットワークは、昭和四十九年に新しく誕生し、ことしてもう十五年目を迎え、いま、新しい地区内交流が着々と芽生えてきた和納十一区におじゃましました。

和納十一区というと、和納地区では二番目に大きな集落で、昭和四十九年に団地造成された新興住宅街です。現在、世帯数は百三十戸。造成団地ということもあり、大半が岩室村外からの転入者で占められ、そのほとんどが勤労世帯という地区です。

ここ和納十一区、もとはといえば「わなみ団地」と称して開発された地区で、団地完成



地区中央にある児童公園。いつも地区民が集う憩いの場です。

当初は、入居者が四世帯と少なく、隣区である和納九区に含まれた形で地区がスタートしました。しかし、その後入居者も急激に増え、昭和五十一年二月に現在の行政区である「和納十一区」として誕生しました。

「ここ和納十一区は、静かで生活環境も良く、それに皆さん人情深い人たちがばかりでいい所ですよ。でも、新しくできた住宅団地ということもあってか、個々の付き合いはいいものの、地区全体の交流というところが薄らい？ような感じがしますね」と和納十一区の

## 和納11区 ミニデータ

(人口と世帯)	
人口	452人
男	219人
女	233人
世帯数	130世帯
(平成元年9月1日現在)	

特徴について一言で話す区長の中原さん。

そんな和納十一区に、ことし六月、地区内交流の拠点となるべき地区集会所が開設されました。これは、以前から地区民の念願だったもので、今回、地区内の民家を借り受けることができ、集会所として利用できるようになりました。「本当に長い間念願だったもので借家ですが、ご好意により開所できるようになり皆さん本当に大喜びです。七月から地区民に利用してもらっているんですが、利用者も多く好評です。これからは、この集会所を交流の拠点として大いに利用し、地区内の交流をさらに深めていきたいですね」と集会所の開所を喜ぶ中原区長さん。



和納11区区長  
中原久治さん  
(68歳)

ところで、地区全体としての活動はもうちよつとという和納十一区。でも、若い世代の多いこの地区、子供会やPTAといった子供を中心とした活動は盛んとのこと。それに、婦人会、老人クラブなどの単位組織での活動も盛んです。「いままでは、何かやろうとしても、その拠点となる施設もなく困っていたんですが、もう大丈夫。これからは地区ぐるみで何かできそうです」と期待を話すある三十代男性。いま、地区内のふれあいを通じた新しい地域づくりの叫ばれている中、この一つの活動拠点を通して、地区内の活性化と交流が芽生えつつある和納十一区。まだ新しい地区ですが、これからの活動がますます期待できる地区です。



地区内の交流の場として開所された和納11区集会所

## 種月寺の魅力を探る

—おらが村岩室ふるさと講座—

開基から五百四十余年を経た石瀬種月寺(住職寒河江真爾さん)が九月二日、国の重要文化財に指定されました。重文に指定されたその建造物の価値は何処にあるのでしょうか。その魅力は何処に秘められているのでしょうか。そんな私たちの問いに、明快な答えを種月寺の本堂は答えてくれるでしょう。講師は、文化庁の重文指定調査官など二度とめぐりあえない学習のチャンスです。

■とき：10月28日(土)午後一時三十分～三時  
■ところ：種月寺本堂(石瀬) ■講師、テーマ：「新潟県の文化財と現況」原文化財主事戸成雅成氏、「重文建造物としての種月寺」文化庁文化財調査官斎藤英俊氏

